

令和 2年度（3年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	生活衛生課
	施策	生活衛生の向上		電話番号	087-839-2865
	基本事業	動物譲渡の推進		事業実施主体	市
	事務事業	動物愛護センター関連施設整備等事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	動物の愛護及び管理に関する法律が改正、平成25年9月から施行され、都道府県や中核市等は引き取った犬や猫について、殺処分がなくなることを目指し、所有者等への返還や譲渡を行うよう努力義務が規定された。全国と比較して殺処分数が多い本市の現状を踏まえ、県と共同で整備した「しっぽの森」（さぬき動物愛護センター）を中心に動物愛護の精神の普及を図るとともに、犬猫の一時保管施設を早急に整備して、殺処分ゼロに向けた取組を行い、人と動物が共生できるまちづくりを目指す。				
2年度概要	動物の愛護及び管理に関する法律が改正、平成25年9月から施行され、都道府県や中核市等は引き取った犬や猫について、殺処分がなくなることを目指し、所有者等への返還や譲渡を行うよう努力義務が規定された。全国と比較して殺処分数が多い本市の現状を踏まえ、県と共同で整備した「しっぽの森」（さぬき動物愛護センター）を中心に動物愛護の精神の普及を図るとともに、犬猫の一時保管施設を早急に整備して、殺処分ゼロに向けた取組を行い、人と動物が共生できるまちづくりを目指す。				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	3-	事務事業の類型	インフラ・施設等整備

【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	香川県と共同で整備した「しっぽの森」（さぬき動物愛護センター）を中心に、動物愛護の精神の普及啓発を図るとともに、犬猫の一時保管施設の整備に向けた検討を進めるなど、殺処分ゼロに向けて取り組む。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
返還・譲渡数	頭	346	335	405	382	382

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
殺処分数	%	目標値	81	67	61	58	58
		実績値	59	64	61.9		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 犬猫の返還・譲渡の推進に取り組んだことにより、返還数、譲渡数が増加し、殺処分数を減少させることができたものの、譲渡不適合の犬猫の収容頭数がわずかに増加した結果、殺処分数を目標値まで抑制することができなかった。	(目標達成度)						(達成度) 98.5% 34点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	(目標達成度)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（決算）	令和2年度（予算）
トータルコスト	[円]	67,567	323,027	68,788	82,371
（事業費）	[円]	34,943	290,510	36,160	49,743
（職員人件費）	[円]	32,624	32,517	32,628	32,628

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

動物愛護センターが開所され、多くの市民がセンター事業に注目し、その結果、動物愛護や適正飼養の啓発や犬や猫の譲渡の推進された。しかし、依然として譲渡不適合の犬猫の収容頭数も多く、殺処分数を目標値まで抑制できていない。出口対策（譲渡）だけでなく入口対策（収容）が重要課題となることから、一時保管施設の整備に向けた検討を進めていく。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

犬や猫の殺処分数が全国の中でも多い本市の現状を踏まえ、人と動物が共生できるまちづくりを推進するため、香川県と共同で整備した「しっぽの森」（さぬき動物愛護センター）を中心に、動物愛護の精神の普及啓発や返還・譲渡を推進するとともに、犬や猫の一時保管施設の整備に向けた検討を進めていく。